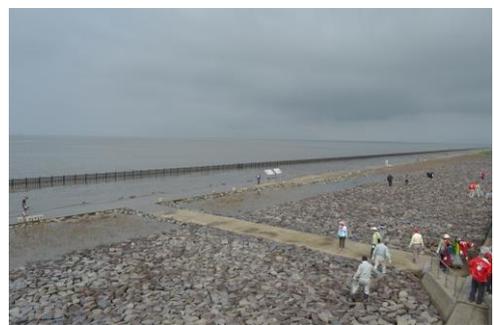


○ユースリサーチプロジェクト in 東よか干潟

- ・日時 2016年5月6日(金)～8日(日)
- ・会場 東よか干潟(東よか干潟ラムサール条約登録1周年記念イベント会場)

5月6日～8日の日程で、九州・佐賀県のラムサール条約登録湿地「東よか干潟」において、第1回目となる「ユースリサーチプロジェクト」を実施しました。ユースリサーチプロジェクトとは、日本各地の湿地を訪問し、そこで実施されている活動を体験。さらに行政、NGO、研究者などへのインタビュー(取材)を通して、その湿地の魅力や問題点を学習し、その成果を「ユース湿地ポスター」にまとめていくプログラムです。まとめたポスターはインターネット上に配信し、多くの人に湿地の魅力を伝えていきます。

東よか干潟は、昨年、ラムサール条約に登録されたばかりの干潟。5月7日に開催された「登録1周年記念イベント」で、東よか干潟で活動する「東よかラムサールクラブ」の子どもたちや、佐賀市役所の担当の方、ブースを出展していた同じ佐賀県の「肥前鹿島干潟」の担当の方々取材し、その成果をポスターにまとめました。作成したポスターは、現在ユースラムサールジャパンのホームページ上にアップされています。ぜひ、ご覧ください。



東よか干潟



取材中のユースラムサールジャパンメンバー

○ミニ交流会 in エコライフ・フェア

- ・日時 2016年6月5日(日)
- ・会場 代々木公園(エコライフ・フェア会場)

昨年も出展したエコライフ・フェアに今年も出展しました。

昨年同様、ラムサール条約登録湿地関係市町村会議、NPO 法人日本国際湿地保全連合、ラムサールセンターで作る「湿地の恵み展実行委員会」に加えていただき、来場者に湿地保全の重要性を伝えました。また、ユースラムサールジャパンの活動を紹介すると共に、ワークショップの湿地クイズに協力。さらに、劇団シンデレラのステージにも登場させていただきました。

昨年同様、ユースラムサールジャパンの活動をPRする場として、たいへんいい機会となりました。



ブース前で記念撮影

○第3回 ユースラムサール CEPA ワークショップ in 蕪栗沼・周辺水田

- ・日時 2016年6月25日(土)～26日(日)
- ・会場 蕪栗沼・周辺水田、大貫地区公民館、加護坊四季彩館



CEPA とは“Communication(広報)” “Education(教育)” “Participation(参加)” “Awareness(普及啓発)”の頭文字を取ったもの。ラムサール条約においては、湿地保全の大切さを多くの人に伝える上で重要な概念とされています。昨年度は「ユースラムサール交流会」のタイトルで実施していましたが、単なる交流会ではなく、ユース自身が湿地について様々な角度から学び、その成果を多くの人たちに伝えていくことによって「日本の湿地保全に貢献していく」という意味を込めて、今年から「CEPA ワークショップ」というタイトルにしました。

そのタイトル変更の1回目を、宮城県大崎市にあるラムサール条約登録湿地「蕪栗沼・周辺水田」において実施しました。蕪栗沼・周辺水田は、世界でも珍しい水田がラムサール条約に登録されている湿地です。そこでテーマを「蕪栗沼と稲作農業」とし、蕪栗沼の生物観察をすると共に、農作業のなかで最もたいへんな草取りを体験。また、普段食べているご飯(お米)はどのような苦勞のもとと作られているのか、農業と生き物が共生するためにはどのような問題点があるかなど、地元農家の方にお話をお聞きし、それを元に議論をしました。また、体験やお話、議論をもとに「蕪栗沼・周辺水田」の魅力を伝える壁新聞を作成しました。



田んぼの草取り体験

【参加者レポート】

蕪栗沼周辺の田んぼは、冬水たんぼや減減栽培がおこなわれている。ラムサール登録されているのが、湿地だけでなくその周辺水田というだけあって、地域ぐるみの保全が形に表れていた。日本人の身近にある「米」と「田んぼ」の姿を、実際の行政の取り組みや農家さんの実体験のお話し、自分たちが減減栽培を手伝うことを通して知れたことは、一面的な見方ではなく視野の広い見方ができたのではないかと思う。KODOMO ラムサールと違い、高いレベルの話も多かったが、ユースらしさが表れた交流会だったと思う。ただの交流会だけでなく、自分で内容を理解してアウトプットすることもあったので、学びが大きかった。素直に自分が体験して感じたことと、考えたことは発信することでさらに身に着けられると思うので、全体を通して交流会は成功だったのではないかと思う。



農家さんのお話を聞く

○日中韓3国子ども湿地交流 in 韓国・安山

- ・日時 2016年7月26日(火)～30日(土)
- ・会場 韓国・安山市、シワ湖・周辺湿地、ソウル市

韓国の首都ソウルの南 50 キロにある黄海に面した安山(アンサン)市。安山市西側の黄海に面した海岸には広大な干潟が広がっています。その一部にある「シワ湖」は、広大な前浜干潟を長大な堤防で埋め立てて1990年代半ばに完成した人造湖で、内部に池や湿原、整備された湿地公園が作られ、いまでは多くのシギ・チドリが飛来する環境となっています。この安山市周辺のフィールドを舞台に、安山市と NGO ウェットランド韓国がアジアの子ども代表を集めて開催する湿地交流会議を開催。その開催にラムサールセンターが協力し、日本の各湿地から参加者を募りました。この活動にユースラムサールジャパンから2名が参加。活動湿地の発表や、安山市周辺の干潟やシワ湖でのフィールド学習を体験しました。

【参加者レポート】

○今回、日中韓3国子ども湿地交流 in 韓国・安山に参加して、初めての海外が韓国で良かったと思っています。理由は、5日間いろんな人と交流し、外国の人ともコミュニケーションをとることができて、いろいろな体験をすることができたからです。藤前の代表として、日本の代表として、韓国を訪れることができて嬉しかったです。○私は、2016年7月26日～29日に韓国・安山市で行われた「東アジアユース会議」に参加してきました。この4日間のプログラムでは日本、韓国、中国、ミャンマー、カンボジアの子どもたちが集まって湿地紹介や施設見学などの活動をしました。今回の私の活動を報告します。



塩田の見学

26日: 仁川空港に着いて他の湿地のメンバーとも合流。バスに乗り込み安山市に向かいました。この空港は離れ小島にある空港で、空港と市内を繋ぐ18km余りの仁川大橋は干潟の上を通っています。通った時は干潮で、見える景色が全部広大な干潟でした。安山に到着後、一緒の部屋に泊まるミャンマー人と中国人2人とも頑張って仲良くなりました。



27日: 初めて韓国人の子どもたちと対面。初めに韓国・安山の湿地シワ湖のムービーと民謡を鑑賞し、さて、本題の各湿地のプレゼンテーション。韓国の子どもの発表ではクロツラヘラサギが印象的でした。自分の発表では、自分の英語は伝わったのかな? 心配。日本の子どもたちは堂々とした発表をしていました。



活動発表の様子

28日: この日バスで初めに向かった先は安山ヨシ原公園。ヨシ原公園を散策し、観察小屋からはサギ類やカワウなどが見えました。次に向かった先は干満の差による潮の動きを利用した潮力発電所。実際に発電所内にも入りました。タービンが近くで稼働しているので、暑い。次の訪問場所は Daenam 小学校。すぐ裏手に干潟と塩田。塩田では上に乗って足で水車を回し、塩田に海水を送るシステムを見学しました。最後に干潟に入り。変わった形のカニの巣穴を見つけ、普段「沼」で活動する私には、新鮮でした。

29日: 今日はソウルの繁華街にも近い「景福宮」という昔の王宮を観光。カササギがいました。昼食後、ショッピング。やはり韓国のりは人気のおみやげ品のようです。

さて、駆け足になりましたが韓国での出来事は私にとってチャレンジの連続でした。実際にやってみて初めて身についたものがたくさんあったと思います。

○第4回 ユースラムサール CEPA ワークショップ in 浜頓別

- ・日時 2016年8月4日(木)～7日(日)
- ・会場 浜頓別町クッチャロ湖水鳥観察館、浜頓別町青少年会館、
浜頓別町福祉センター、ウソタンナイ砂金採掘公園、ベニヤ原生花園



4回目となる「ユースラムサール CEPA ワークショップ」は北海道の最北部、枝幸郡浜頓別町にあるクッチャロ湖(ラムサール条約登録湿地)、およびその周辺で開催しました。浜頓別町には、クッチャロ湖のほか、日本有数の砂金の産地であったウソタンナイ砂金採掘公園(ウソタンナイ川)や、多くの海浜植物がみられるベニヤ原生花園などの観光地があり、観光資源にも恵まれた街です。そこで今回は「ラムサール条約湿地と観光」をテーマに、浜頓別町にあるこれらの北海道特有の自然環境や観光地を訪問し、体験し、学ぶことで浜頓別町の隠れたアピールポイントを考え、見つけ、



ウソタンナイ砂金採掘公園

壁新聞にまとめました。また、「KODOMO ラムサール in 浜頓別」と同日程で開催し、その実施にユースも協力しました。KODOMO ラムサールの狙いを理解した上で、中村大輔先生がファシリテートするプログラムの一部をユースが担い、環境教育の実践を体験することで、新たな「学び」と「スキルアップ」を目指しました。

【参加者レポート】

○フィールドワークでは、地元の方ともっとお話してみたかったです。そして自然環境を生かした産業と、その問題点について参加していたユースのメンバーで話し合えると色々な湿地の人ならではの意見が出てきて、より面白かったと思います。最も、嬉しかったことは浜辺で「サルパ」という生物を見ることが出来たことです。また、砂金堀やベニヤ原生花園での活動を通して、自然環境と観光業は切っても切り離せないものなのだと五感で学ぶことが出来ました。自然環境を産業、観光業に利用するとき、どこまで利用するかというさじ加減が、その土地の人たちの生き方にも関係してく



ベニヤ原生花園

ると考えました。その生き方は浜頓別町の人々のクッチャロ湖を想う気持ちにつながっていると思いました。私たちはその想いを学び未来につないでいかなくてはならないと思います。

○今回 KODOMO ラムサールのサポートを通してイベントを成功させるためには、いかに子どもたちを仲良くさせられるかということが重要であると思いました。住む地域も年も違う子と交流できる機会は小学生にとって、とても貴重な経験で、とてもいい思い出になると思います。そしてなりより良いお宝のポスターを完成させるためにも必要となってくることです。今まで子どもの参加者という立場では、他の人と素早く打ち解けることを自然と感じていましたが、そこには大人たちスタッフの影の努力が あってこそなんだなと今回のユースラムサールで強く実感しました。

○ラムサールシンポジウム in 中海・宍道湖 (ユースリサーチプロジェクトとして実施)

- ・日時 2016年8月27日(土)～29日(月)
- ・会場 米子全日空ホテル



「ラムサールシンポジウム 2016 in 中海・宍道湖」(主催: 日本国際湿地保全連合ほか)が、2016年8月27日～29日に鳥取県の米子市で開催されました。ラムサールシンポジウムは今回が2回目の開催になります。前回は1996年に新潟で開催され、それから20年がたったことで湿地を取り巻く環境は解決に向け前進しているものや、依然解決していないものなど様々です。そこで湿地の現状を見直し情報の共有、賢明な利用の促進を行い、



会場の様子

湿地を通じたネットワークを築き協働を進めるため今回シンポジウムが開催されました。シンポジウムではルー大柴さんをゲストに迎えトークショーが行われたほか、地元中海・宍道湖の発表など60件の全国各地の取り組みが紹介されました。ユースラムサールジャパンからは3名が参加し、活動発表を行いました。

【参加者レポート】

今回、私はユースラムサールジャパンの活動の一環として、8月28日、29日に鳥取県米子市で開催されたラムサールシンポジウム 2016 in 中海・宍道湖に参加した。

このシンポジウムは発表者、見学者を含め170人余りが参加し、発表団体はプロジェクターを使ったり、ポスターを掲示したりして、自分たちの行っている活動を参加者に説明していた。ユースラムサールジャパンは口頭発表により活動報告をし、中学生～大学生中心となって活動していることをアピールした。

その他にも、数多くの発表があり、高校生の私にとって、ためになるものばかりだったが、特に印象深かった発表をいくつか挙げようと思う。「日本の湿地をとりまく状況はどう変わったか」というテーマでは、「ふゆみずたんぼ」は蕪栗沼発祥だという話があった。普段蕪栗沼で活動している自分が知らなかったのは恥ずかしいが、この水鳥と人間の共生という観点で成功した農法が北海道宮島沼などのマガンの飛来地でリスペクトされ、さらにはシギやチドリのための「なつみずたんぼ」というまた違った概念も生まれたということを知り、これは良い連鎖だなと思った。このシンポジウムも、今回聞いた成功した事例を地元を持ち帰り実践することで、一つの意味を持つのではないだろうかと思う。「湿地を地域にどう役立てるか」というテーマでは、世界遺産登録などに比べ、ラムサール条約登録はあまり注目されないどころか、干潟や湖沼の「保護」という名目により、一般の人々が近づきたい印象が加えられるという話を聞いた。このような湿地における観光業振興の問題は、湿地で活動している人の腕の見せ所ではないかと思う。その湿地にある固有の資源をどう上手く使うかによって成功するか否かが決まる。その見極め判断の力というのは、やはり成功した/失敗した湿地での経験を見て回ることによって培われるものなのだと思う。

このシンポジウムに参加して私が思うことは、湿地環境という狭いカテゴリで活動していくためには、日本をまたぐのみならず、インターネットを通じて世界と繋がらなければいけないということだ。海外にも特異な環境を持つ湿地がたくさんあると思う。いろいろな環境で活動している人々の多様な意見を聞くことで、自分の考え方も柔軟になっていくのではないだろうか。今回のシンポジウムでも沢山の人の世話になり、いろいろな考え方を知った。私も、自分の意見を人々に向けて積極的に発信することを心がけたい。

○環境デーなごや

- ・日時 2016年9月17日(土)
- ・会場 久屋大通公園(環境デーなごや会場)



昨年も出展した「環境デーなごや」に、今年もユースラムサークルジャパンとして単独でブースを出しました。当日はユースラムサークルジャパンの活動を伝えるパネル展示を行うと共に、ワークショップとして巻貝の貝殻を飾りにした「ネームプレート作り」を実施。親子づれを中心に約50名の方がワークショップを体験していきました。また、劇団シンデレラの進行のもと、野外ステージにおいて活動発表を実施。一般来場者約50名の前で発表を行いました。

【参加者レポート】

○私は今回初めて環境デーなごやに参加しました。ユースラムサークルジャパンは、子どもたちに、ネームプレートの作成をワークショップとして提供しました。しかし、はじめは、たくさんブースがある中で、ネームプレートという企画でユースラムサークルジャパンに寄ってくれるのか、と不安になりました。ですが、予想に反し、たくさん子どもたちが来てくれました。作成に携わっていると、子どもたち自身で考え、作成し、個性のあふれる作品を作る姿をみて感動しました。

それだけでなく、作ったプレートを「ドアの前に飾ろう」「机の前に置こう」と聞き、思い出のものとして残せることができとても嬉しく思っています。

○今年も環境デーなごやに参加しました。劇を3回ステージで行い、大きな場で一般の人たちに見てもらうことができました。また、ユースの発表によって藤前干潟のことや活動の様子を知ってもらえたと思います。こういう活動を通じて、環境について考えてもらえたら嬉しいと思いました。



ブース出展の様子



活動発表の様子